

第4章 推奨する色彩の考え方

この章では、建築物の外壁などに使用する色について、景観ゾーンや景観拠点別にそれぞれの地域の色彩特性を把握した上で、推奨色を示しています。

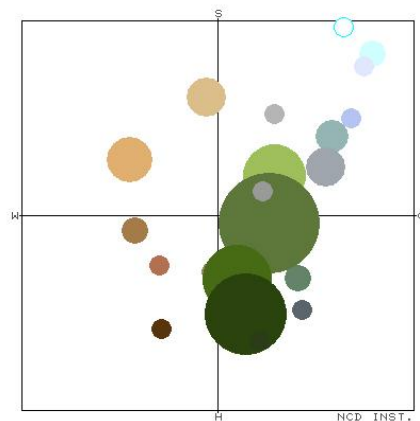
1. 色彩の現状と推奨の方向

1) 色彩の現状—成田市の色を知ってください

成田市には、これまでの生活の営みの中で形成された特徴ある景観資源が多くあります。これらの景観を保全、育成し、良好な景観を形成するためには、地域でこれまで長年使われてきた色彩を知り、建築物の建築などの際には、その地域の特性に合ったなじみやすい色彩を使用することが重要です。

本ガイドラインでは、色彩の現状調査により、下図のようにそれぞれの地域の色を分析しました。

	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	計	Neutral	
あ												あ	N9.5
や												か	N9
か												い	N8
あ												い	N8
か												お	N7
る												だ	N6
い												や	N5
お												か	N4
だ												く	N3
い												ら	N2
あ												い	N1.5
か												計	2.7
ら													
い													
計	0.9	12.7		70.9		1.0	4.5	6.4			97.3		



■色彩の現状調査の結果の分析図の例
色相とトーンをマトリクスで捉えると、色彩の分布の状態が一覧できます。

■調査結果をカラーイメージスケール上に表示した例
丸の大きさは面積を表しています。

2) 各景観ゾーンの色彩の推奨の方向

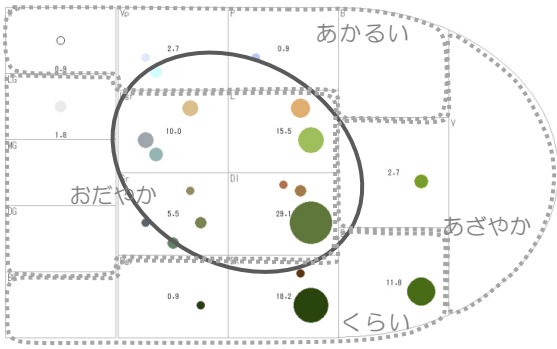
① トーンからみた推奨の方向

各地域の色彩の現状調査の結果からトーン分布図を作成し、そのトーンの傾向から、地域になじみやすい色彩を検討し、推奨の方向を示します。

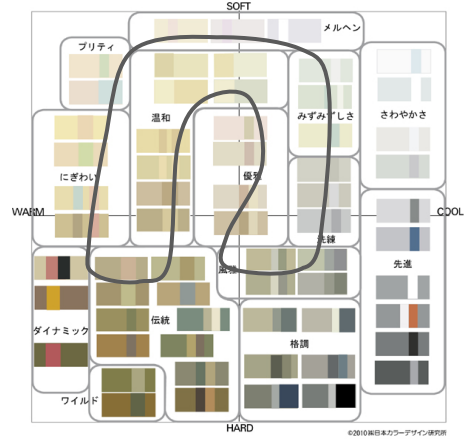
② イメージからみた推奨の方向

色彩の現状調査やアンケート調査結果から、地域のイメージからみた色彩の推奨の方向を配色イメージスケールにより示します。計画しているデザインが、その地域のイメージに合っているか確認し、配慮してください。

なお、配色イメージスケールは、基調色と強調色の組み合わせなどの工夫により様々な個性を表現する際の参考として、有効に活用してください。



■ トーン分布図による推奨の方向の例
(トーンから見た推奨の方向)



■ 外装色の配色イメージスケールによる推奨の方向の例
(イメージから見た推奨の方向)

3) 推奨色

トーンから見た推奨の方向及びイメージから見た推奨の方向に基づき、建築物等の外壁の基調色に対して、推奨色を示します。

推奨色は、それぞれの地域になじみやすく、お勧めしたい色彩として、景観ゾーンや景観拠点別に示しておりますので、色彩計画を行う際は、明度や彩度の調子を見ながら参考にしてください。

なお、明度や彩度は素材や仕上げなどで変わるため、計画地の周辺における色彩の状況を確認しながら調整を行なうことも大切です。



■ 推奨色の例

※このガイドラインで使用している分析図は、色相とトーンを用いて色の分布がひと目でわかるように工夫したものです。トーンを大まかに区分けした4つの分類（あかるい・くらい・あざやか・おだやか）は、成田市景観計画に準じ、独自の分類名を採用しています。

届出の際には、マンセル数値で色彩を表記してください。

■資料1 / 色彩の目指したい方向性

色彩の現状調査や景観の色彩に関するアンケート調査の結果から、各景観ゾーンと歴史景観拠点の色彩の目指したい方向性を検討しました。アンケート調査で利用した5色配色イメージスケールを用いて示します。



●里地景観ゾーン：

図の中央のおだやかゾーンのうち、ソフト寄りの自然を感じさせる方向性

●住宅市街地景観ゾーン：

やさしい感じのする、明るくソフトな方向性

●商業地景観ゾーン：

はなやかなゾーンでにぎわいを感じさせる方向性

●工業地景観ゾーン：

ややすっきりとした、穏やかでさりげない印象の方向性

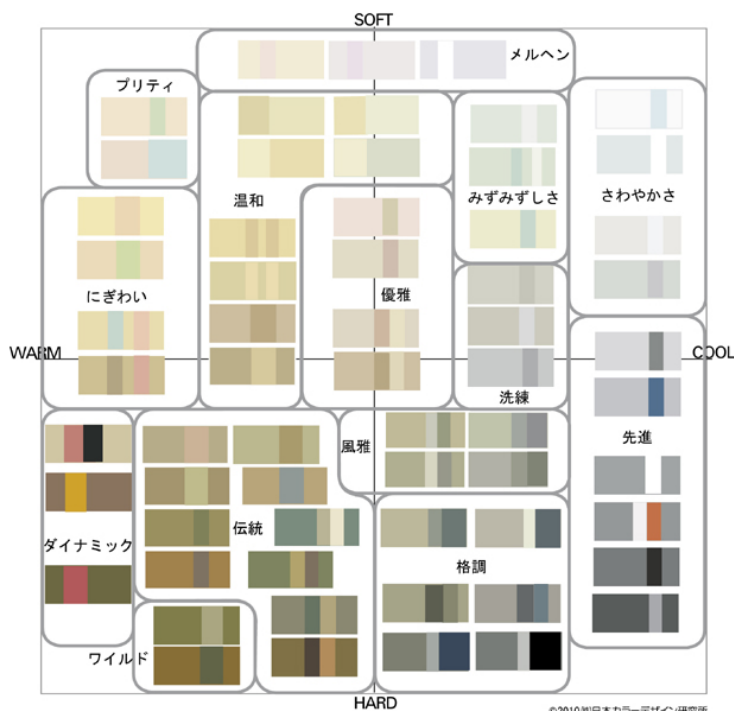
●成田国際空港周辺景観ゾーン：

颯爽として先進的な感じのする、すっきりした印象の方向性

●歴史景観拠点：

木や土の色を使用して、伝統や風情を感じさせる方向性

■資料2 / 景観に影響を与えやすい外装の色



左図は、建築物等の外装の色彩の使い方によって表現される印象の差異を一覧にした、外装色の配色イメージスケールです。

建築物等の規模やデザインによっても印象は変わりますが、外装色から表現されるおおよその印象の方向性として、参考にしてください。

■資料3／色彩分析図等の解説

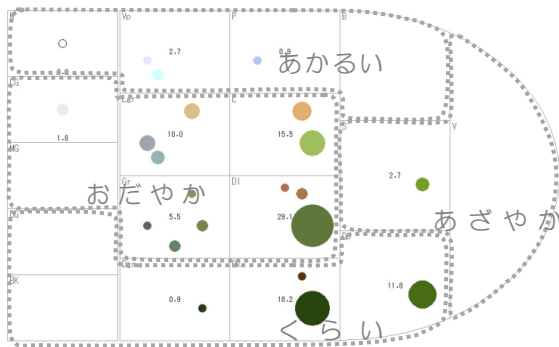
色彩の現状調査の結果や色彩の推奨の方向を示すために利用している、色彩の分析図の解説をします。

	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	計	Neutral
あざやか												N9.5
S				2.7							2.7	N9
あかるい												N8
P									0.9		0.9	N7
Vp							1.8	0.9			2.7	N6
Lgr	3.6						2.7	3.6			10.0	N5
おだやか	5.5			10.0							15.5	N4
L	0.9			1.8							2.7	N3
Gr	0.9			1.8		1.8			0.9		5.5	N2
DI	0.9	1.8		3.6							6.4	N1.5
く				1.8							2.7	
Dp				3.6							11.8	
Dk				1.8							3.6	
Dgr				0.9							1.8	
い				0.9							1.8	
計	0.9	12.7		70.9		1.8	4.5	6.4			97.3	2.7

■色相&トーン分析 130色

R, YR, Y, GY, G, BG, B, PB, P, RP の基本10色相で整理し、それぞれの色相の明度と彩度のバランスで整理した12トーンと10に分割した無彩色の一覧表。

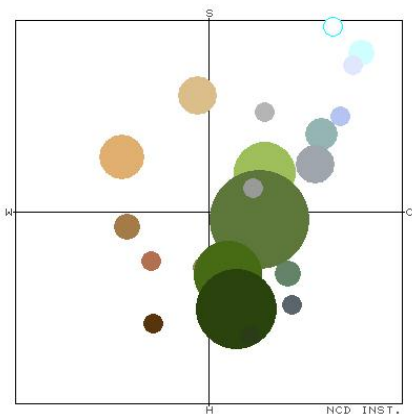
出現した色彩の部分がカラーで表示される。色相ごとに集計した比率、トーンごとに集計した比率、無彩色を合計した比率も、同時に表示される。



■トーン分析

12に区分したトーンでみた色彩の構成比率を示した図。あかるい（明度が高い）、く（明度が低い）、あざやか（彩度が高い）、おだやか（彩度が中くらい～低い）という大まかな4つの分類も表示している。

無彩色は5段階に分割して集計し、明度に合わせて、あかるい、おだやか、くりに含んでいる。丸の大きさが色彩の占める割合の大小を示している。



■イメージスケール分析

「ウォーム-クール」、「ソフト-ハード」のイメージの分類軸に、色相&トーン分析に従って表示したものである。その色彩の持つ印象を示している。

丸の大きさは色彩の占める比率の大きさに準じている。

測色して得た色彩の総合で、どのような雰囲気に見えるのかの概要を示すものである。



■出現頻度順色帯

イメージスケール分析と同じように、色相&トーン分析に従って、単純に多い順に並べたものである。どのような色彩が多いかの判断を容易にできる利点がある。

2. 景観ゾーン別の推奨する色彩

1) 里地景観ゾーン



○色彩の現状

a. 全体傾向

里地景観ゾーンには、特徴ある地形の中に豊かな耕作地をつくり上げてきた、成田市での生活の営みが今も息づいています。谷津の景観などは、他の地域ではなかなか見ることができない、成田市独特の景観です。

b. 色彩の特徴

色彩の特徴としては、自然の森や林、田畑の色彩が多くを占めています。ここに掲載している調査結果は8月の時点で、特に深みのあるトーンも含めてGY系が中心となっています。

秋や冬には稲穂の色彩のY系や収穫の後の土の色彩のYR系の増加がありますが、いずれも自然の色彩の範囲で、これらの色彩は、彩度8以下が多い傾向です。

■出現頻度順分析



里地景観ゾーンでは、背景の田畑や斜面林の色彩とのバランスを考えて計画することになるため、畑や斜面林等の色彩を測っています。

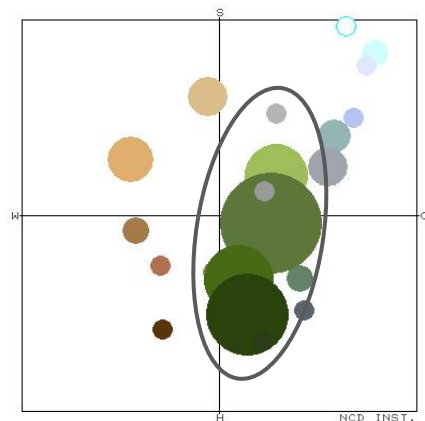
■色相&トーン分析

		R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	計	
あ や か ら い	V												
	S				2.7							2.7	
	B												
	P								0.9			0.9	
	Vp								1.8	0.9		2.7	
	Lgr			3.6					2.7	3.5			10.0
	L			5.5	10.0								15.5
	Gr			0.9	1.8		1.8		0.9				5.5
	DI	0.9	1.8		25.4								29.1
	Dp				11.8								11.8
	Dk		0.9		17.3								18.2
	Dgr				0.9								0.9
	計		0.9	12.7	70.9		1.8	4.5	6.4				97.3

		Neutral
あ か ら い お だ や か く ら い	N9.5	0.9
	N9	
	N8	0.9
	N7	0.9
	N6	
	N5	
	N4	
	N3	
	N2	
	N1.5	
	計	2.7

色相ではGY系に集中しています。田畑の色彩、山や林の色彩、河川敷の色彩です。

■イメージスケール分析



色彩のイメージの傾向ではソフトでもなくハードでもなく、中間の軽重感で穏やかな印象のところに集中しています。

○色彩の考え方

a. トーンからみた推奨の方向

里地景観ゾーンの中心を構成している自然の色より突出した高彩度の色彩や、自然の色には少ない色相はあまり用いないほうが良いでしょう。

人工的な印象の強い無彩色の扱いにも配慮が必要でしょう。

b. イメージからみた推奨の方向

やすらぎのある里地景観の保全を目指します。色彩は、斜面林や水辺などの緑との調和と、地域の伝統色への調和に配慮するために、自然のイメージ、風情を感じるイメージ、伝統を感じさせるイメージの方向性がふさわしいでしょう。

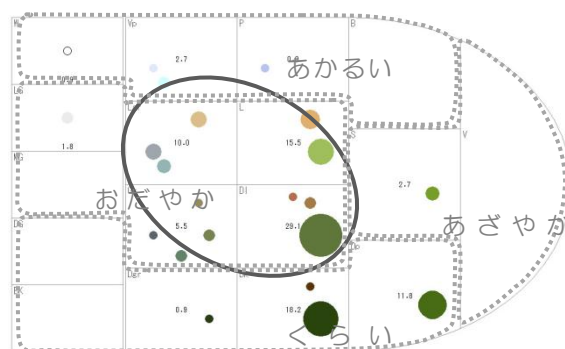
c. 推奨色と配慮事項

斜面林の緑になじむよう、また田園の緑や稲穂の実りの時の色彩より目立たないように有彩色の中明度・中彩度色を中心に考えましょう。従来からある民家の素材の色等も参考にしましょう。

白や黒に近い色彩は人工的な印象が強いため、自然中心の景観の中では仕上げの素材の配慮が必要です。自然の色彩の生き生きとした印象も大切に、あまり無機質にならないように配慮しましょう。

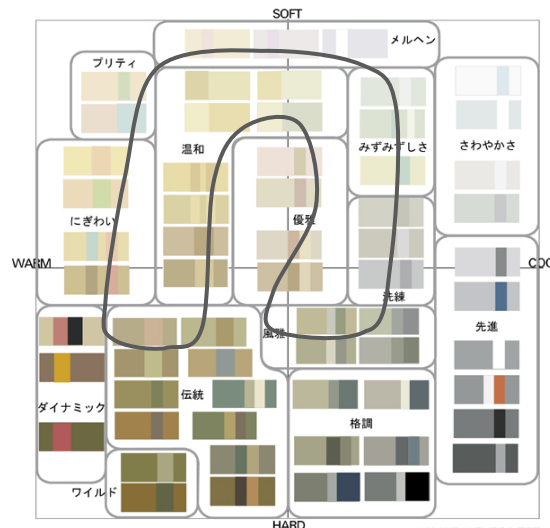
また、自然の中ではコントラストの強い色の組み合わせは目立つことも多いので注意が必要です。

■ トーンからみた推奨の方向



稲穂の色彩より目立たないように、土の色彩や緑の色彩になじむ、有彩色の中明度・中彩度を中心に考えましょう。

■ イメージからみた推奨の方向



穏やかな自然のイメージの色彩を大切にすよう、配慮しましょう。

○推奨色一覧

5Y 8.5/1.0	2.5Y 8.0/1.5	N7.5
10YR 7.5/2.0	2.5Y 7.0/2.0	5Y 6.5/0.5
7.5YR 6.0/4.0	10YR 6.0/4.0	N5.5
10YR 5.0/3.0	7.5YR 4.0/3.0	5YR 3.0/2.0

2) 住宅市街地景観ゾーン



○色彩の現状

a. 全体傾向

成田市は、新住宅市街地開発事業や土地区画整理事業など、段階的に住宅地の整備が行われ、市街地が拡大してきました。整備時期による色合いの違いのほか、様式やデザインの工夫が見られます。植栽がしっかり根付いて豊かな緑の連続を形成している地区も多くあります。

b. 色彩の特徴

色彩の特徴としては、色相のバリエーションが豊かで、様々な色彩を用いていることがわかります。ただし、イメージスケール分析を見ると分かるように、住宅の外壁の色彩はソフトゾーンに集中している傾向が見られます。低彩度でやや明るいトーンがそのほとんどを占めており、彩度2以下の色彩が多い傾向です。

無彩色も少なく、白や黒などのはっきりした無彩色は数多くは見られません。明るく穏やかな色彩が中心と言えます。

■出現頻度順分析



住宅市街地ゾーンでは、向う三軒両隣と言うように、隣や向かいの住宅とのバランスを考えて計画することが望まれるため、住宅の外壁色を中心に測っています。

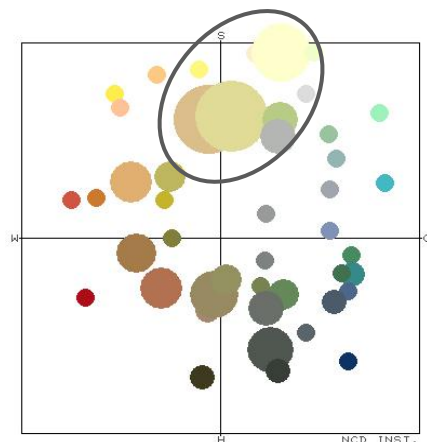
■色相&トーン分析

	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	計
あや											
やか											
V	0.7	0.7	0.7								5.1
S	0.7	0.7	0.7			0.7	1.5	0.7			5.1
B							0.7				1.5
P	0.7	0.7	0.7			0.7					2.9
Vp	0.7	0.7	0.7								10.9
L	0.7	11.8	13.2	2.9		0.7	0.7	0.7			30.9
Lgr	0.7	4.4	2.2								7.4
L	1.5	5.9	2.2	0.7	2.2			0.7			13.2
Gr	1.5	3.7	0.7								11.9
Di	0.7							1.5			1.5
Dp	0.7							0.7			1.5
Dk											
Dgr		1.5									1.5
計	8.8	29.4	29.4	4.4	2.2	2.9	2.9	5.1			85.3

非常に幅広い色相にわたって出現しており、トーンも様々ですが、中心となっているのはYR~Y系です。

アイボリー~ベージュ系が多くを占めていることがわかります。

■イメージスケール分析



幅広い色相が用いられていますが、明るいトーンが多いため、全体のイメージとしては明るくソフトな印象となっています。

○色彩の考え方

a. トーンからみた推奨の方向

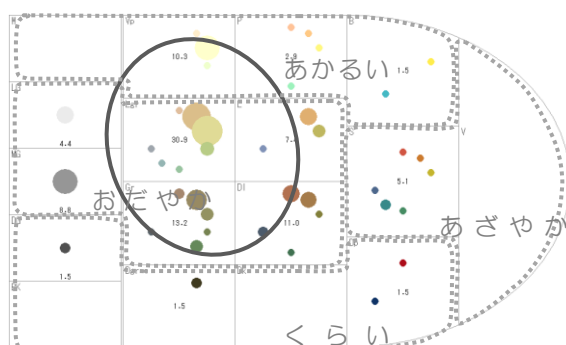
今まで形成されてきた雰囲気になじむ、明るい傾向を基本としましょう。

b. イメージからみた推奨の方向

快適でゆとりのある街並みの景観の形成を目指します。これまで地区毎に住民がつくりあげてきた景観を大切に、よりよい色彩景観をつくりあげていきましょう。

現状の色彩傾向を参考にして、柔らかい明るめのトーンなどを中心に考えましょう。

■ トーンからみた推奨の方向



明るく低彩度なLgrトーンを中心に考えましょう。無彩色は無機質で冷たく見える場合もあるため、バランスに配慮しましょう。

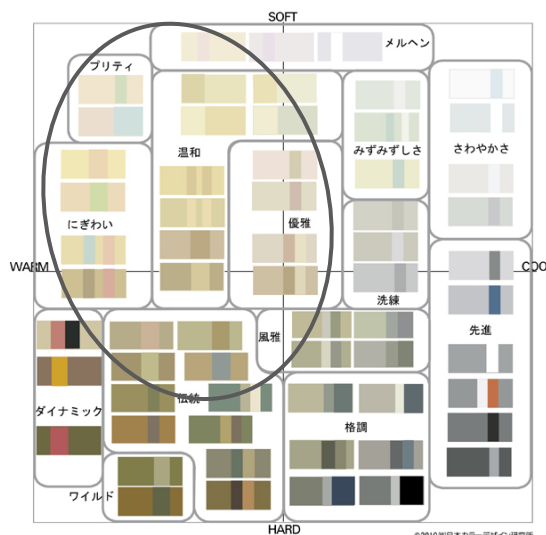
c. 推奨色と配慮事項

緑を活用しながら周辺と調和するように配慮します。

外壁色と屋根色を計画する際に、両隣はもちろん、並び全体や向かいへなじむよう配慮することが重要です。

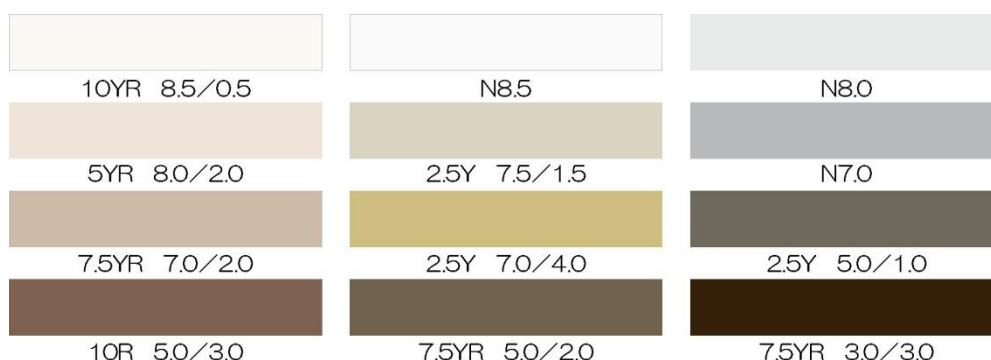
集合住宅も同様に、周辺の景観へ配慮しながら、基調色と強調色を使いこなしてください。

■ イメージからみた推奨の方向



穏やかでなごやかなイメージを感じさせる、明るめで暖かみのあるイメージを中心に考えましょう。落ち着きを感じさせるイメージもふさわしいでしょう。

○推奨色一覧



3) 商業地景観ゾーン



○色彩の現状

a. 全体傾向

幹線道路沿いに大型店舗や飲食店などが立ち並び商業地がいくつか見られ、明るい色彩や派手な色彩が目にとまる地域です。計画的に整備された商業地では、病院やスポーツクラブなどもあり、人が集まる地域となっています。また、敷地が広く、低層型が多いことも特徴です。

b. 色彩の特徴

色彩の特徴としては、にぎわいのある商業地でも、建築物の外壁色自体は一般的な建築物と同様、明るく、やや低彩度のトーンが中心の傾向です。

華やかさも表現できる中彩度色や、よりインパクトを感じる高彩度色も少ない数ながら見られます。

■出現頻度順分析



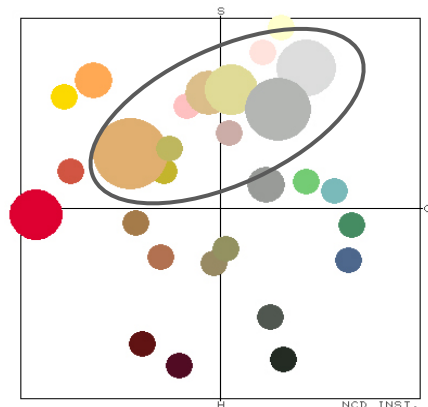
商業地景観ゾーンでは、中～大型の店舗が多く、看板も目立ちますが、基本計画に必要な建築物の外壁色と、ある程度大きい面積で用いられている強調色を測定しています。

■色相&トーン分析

	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	計
あ	7.8		1.8								9.6
か	1.8		1.8		1.8		1.8				7.0
あ		3.5									3.5
か			1.8						1.8	1.8	3.5
あ			5.3	7.0	1.8						13.8
か	3.5	14.0	1.8		1.8		1.8				22.8
あ			1.8	1.8							3.5
か	1.8	1.8									3.5
あ	1.8									1.8	3.5
か											1.8
計	15.8	26.3	15.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	7.0		73.7

高彩度で派手な色彩が目立って見えますが、基調色として大面積に用いられているのは、アイボリー～ベージュ、ライトグレーなど、高彩度で彩度の低いトーンです。

■イメージスケール分析



ソフトゾーンに集中していて、明るく柔らかなイメージです。暖色の色相が多い傾向のためウォームゾーン寄り、暖かさも感じさせます。

○色彩の考え方

a. トーンからみた推奨の方向

にぎわいが感じられるように、他のゾーンより範囲を広く設定しています。色彩は、楽しさや活気が感じられるよう配慮しましょう。

現状のように、明るい基調色に強調色の使い方を工夫しましょう。

b. イメージからみた推奨の方向

にぎわいとおもてなしの心を大切にしたい活気や華やかさを感じさせる景観の形成を目指します。

イメージとしては、全域で豊かで多様なイメージの表現が可能ですが、人が立ち寄りたくなるような、温かく魅力あふれるデザインを目指しましょう。

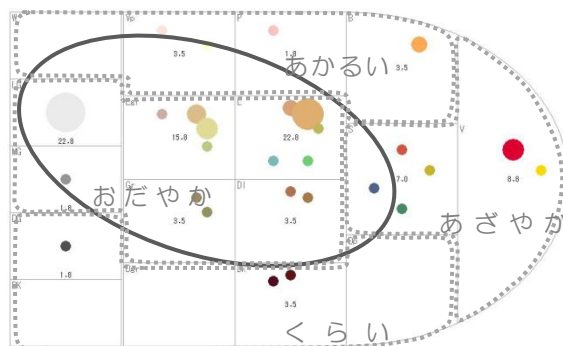
c. 推奨色と配慮事項

基調となる色彩は、強調色を活かせるよう配慮しましょう。

強調色は、色彩のもつコミュニケーション性や、遠くからも見える認知性の高さなどを活用し、来訪者を歓迎するデザインを目指しましょう。

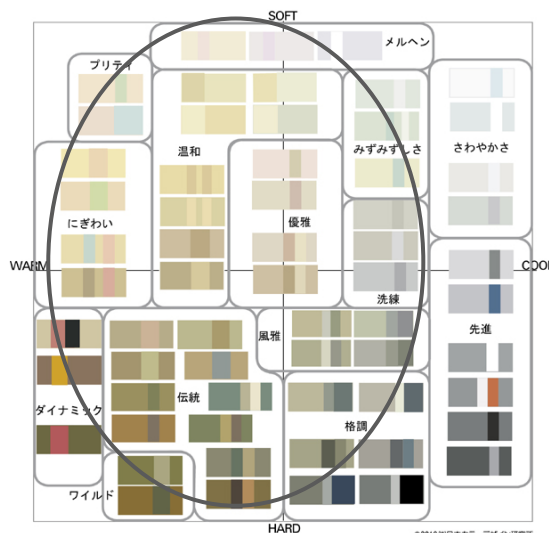
外壁色は、隣接する施設とのつながりや、看板とのバランスなどを工夫するとともに、植栽の緑が映えるように配慮しましょう。

■ トーンからみた推奨の方向



基調色は、明るく低彩度なトーンを中心に考え、デザインに応じて強調色を工夫しましょう。

■ イメージからみた推奨の方向



イメージは幅広く考えられるでしょう。ただし、機能性優先のようなクールすぎるイメージや堅苦しいイメージは寂しい印象にもなりやすいので、注意しましょう。

○推奨色一覧

N8.7	5R 8.5/1.0	N8.0
5YR 8.0/3.0	10YR 8.0/3.0	N7.0
10YR 7.0/3.0	2.5Y 7.5/3.0	10YR 6.0/1.0
5YR 4.0/4.0	2.5Y 6.0/2.0	2.5Y 5.0/2.0

4) 工業地景観ゾーン



○色彩の現状

a. 全体傾向

建築物は、整然としたすっきりしたデザインが中心です。植栽にも配慮しており、緑豊かでクリーンでクールな傾向が見られ、すがすがしい景観を形成しています。

b. 色彩の特徴

色彩の特徴としては、シンプルなデザインの傾向で、あっさりした色彩が中心です。外壁色は明るいトーンが多く、緑とともにすがすがしいすっきりした印象の景観を形成しています。無彩色の中～高明度も多く、爽やかな印象が強められています。

■出現頻度順分析



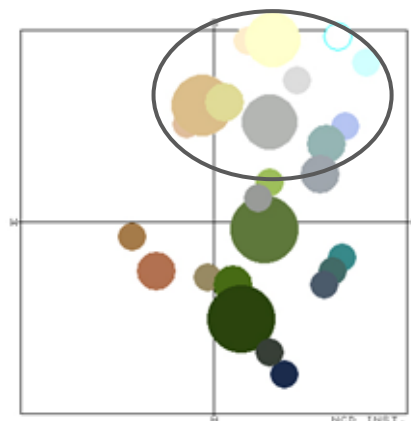
工業地景観ゾーンでは、敷地計画として植栽を取り入れており、景観の構成要素として緑の占める割合が多いので、建築物の外壁色と周辺の緑を測色しています。

■色相&トーン分析

	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	計
あ											
さ											
か							2.0				2.0
あ											
か									2.0		2.0
あ			2.0	8.0							12.0
さ		2.0	10.0	4.0			4.0	4.0			24.0
だ					2.0						2.0
か					2.0						2.0
や	4.0	2.0					2.0	2.0			22.0
か					4.0						4.0
く					12.0						12.0
ら								2.0			2.0
い											
計	6.0	16.0	12.0	30.0			10.0	10.0			84.0

高明度色が多く使われて、すがすがしい景観を形成しています。ブルー系はアクセントとして使われている傾向があります。

■イメージスケール分析



明るいトーンの色相が多いため、ソフトなイメージです。ブルー系のアクセントカラーの影響もあり、全体的にクールでソフトなイメージとなっています。

○色彩の考え方

a. トーンからみた推奨の方向

周辺の環境と調和した景観の形成を目指すために、緑が映える色彩に配慮しましょう。
 大型の建造物も多くなるため、圧迫感などを感じさせないように中～高明度色などを中心に考えましょう。

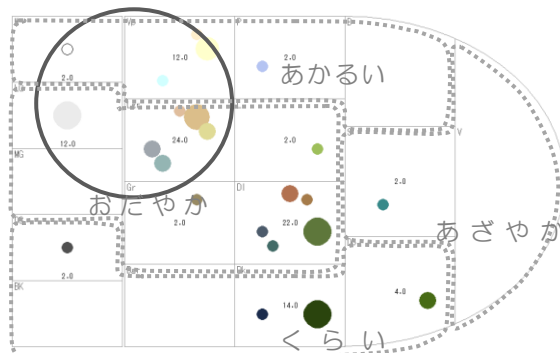
b. イメージからみた推奨の方向

清潔で安全なイメージのあるクールでソフトなイメージを基本に検討しましょう。
 親しみやすく穏やかな、温もりを感じさせるソフトなイメージも安心なイメージにつながりやすいでしょう。

c. 推奨色と配慮事項

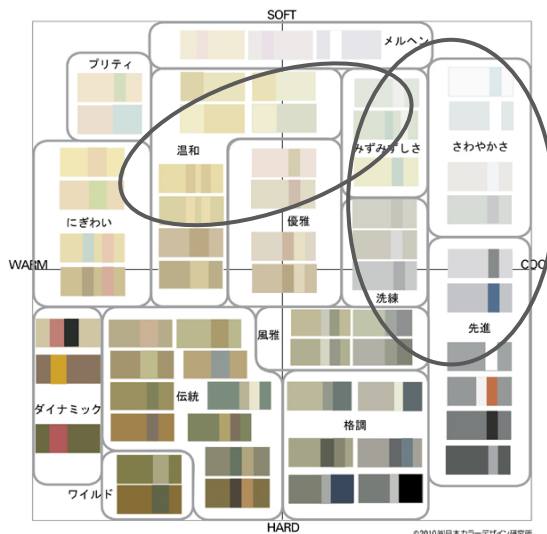
清潔感や安心・安全のイメージに重きを置いた色彩を検討しましょう。
 整備された植栽の緑とのバランスや調和にも配慮しましょう。
 工場や倉庫などは機能に準じた形状が基本ですが、規模により圧迫感のある印象や単調で長大な印象を感じさせないように配慮しましょう。

■ トーンからみた推奨の方向



明るく低彩度なトーンを中心に考えましょう。
 暗いトーンは圧迫感につながりやすいため注意しましょう。
 無彩色は無機質で冷たく見える場合もあるので、彩度のバランスにも配慮しましょう。

■ イメージからみた推奨の方向



植栽に映える明るくみずみずしいイメージや、クールなゾーンのすっきり爽やかで安全なイメージを大切にしましょう。

○推奨色一覧

2.5Y 8.0/1.0	5Y 8.5/0.5	N8.7
5Y 8.0/0.5	5B 8.0/0.5	N8.0
5Y 7.5/1.0	5PB 7.5/0.5	N7.0
2.5Y 7.0/1.5	2.5Y 6.5/1.5	N6.5

5) 成田国際空港周辺景観ゾーン



○色彩の現状

a. 全体傾向

空港の周辺は多くの緑で囲まれています。

建築物は目的に合わせて、無彩色から中彩度色まで様々なバリエーションがあります。

b. 色彩の特徴

色彩の特徴としては、あまり明るすぎず、暗すぎない中明度が多く、緑となじむ傾向となっています。白く反射する建築物や高彩度で目立ちすぎる建築物などはあまり見られません。

■出現頻度順分析



成田国際空港周辺ゾーンでは、計画地の背景となる空港周辺の緑地や、空港の外から見える空港施設の建造物の中～遠景の色を測っています。

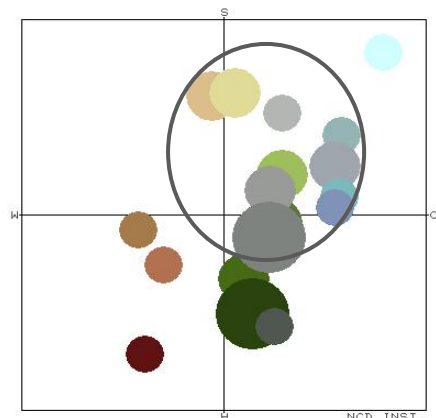
■色相&トーン分析

	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	計
あやか											
あか											
あかるい											
あ											
い											
お											
だ											
や											
か											
くら											
い											
計	6.5	9.7	6.5	32.3			9.7	9.7			74.2

	Neutral
あ	N9.5
か	N9
る	N8
い	N7
い	N6
い	N5
い	N4
い	N3
い	N2
い	N1.5
計	25.8

低彩度で明るめのLgr トーンと中明度のグレー系が多い傾向です。目立たない色彩が中心といえるでしょう。

■イメージスケール分析



ブルー系やグレー系がみられるため、全体にクールなイメージで、中明度が中心の穏やかなイメージです。

○色彩の考え方

a. トーンからみた推奨の方向

緑の爽やかさを活かしつつ、颯爽とした日本の空の玄関としての景観を目指しましょう。

空港周辺では、安全に配慮し、極端に目立つ高彩度や反射率の高い高明度は避けるようにしましょう。

b. イメージからみた推奨の方向

空港をとりまく特徴のある景観の形成を目指します。

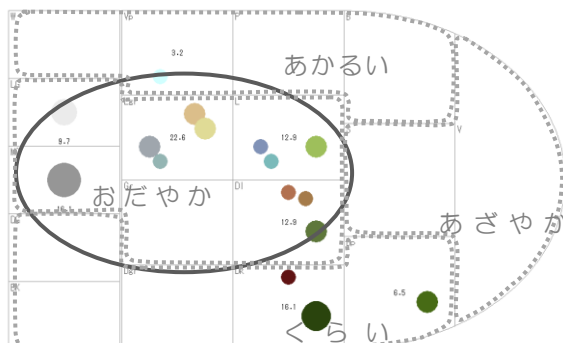
安全性と機能性に配慮したイメージや、空の旅の疲れを癒すような穏やかなイメージを大切にしましょう。

c. 推奨色と配慮事項

合理性や安全性などに配慮し、シンプルな無彩色系や明るく穏やかな Lgr トーンを中心とした色彩を推奨します。

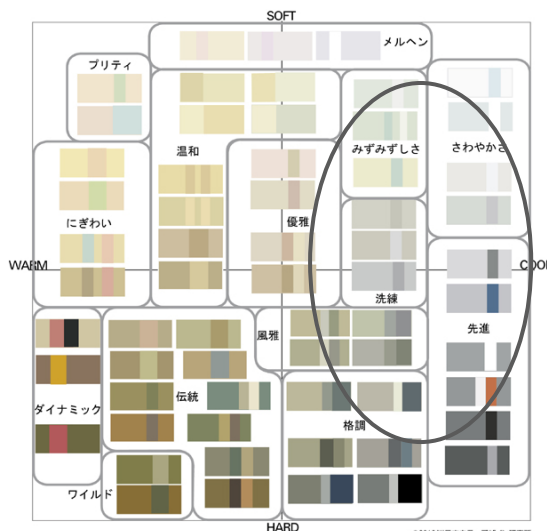
アクセントには、空を意識したブルー系、緑を意識したグリーン系などもすがすがしい印象につながり、空港を中心とした拡がりのある景観にふさわしいでしょう。

■ トーンからみた推奨の方向



安全性に配慮し、光が反射して目立ちやすい高明度色を避け、中～低彩度、中明度の抑えたトーンを中心に検討しましょう。

■ イメージからみた推奨の方向



日本の空の玄関にふさわしい、先進的で洗練されたイメージを目指しましょう。緑のすがすがしさともマッチした、安全で機能的なイメージや、おもてなしの穏やかさも感じさせるイメージも意識しましょう。

○推奨色一覧

2.5Y 8.0/1.0	5Y 8.0/0.5	5B 7.5/0.5
5Y 7.5/1.5	5Y 7.5/0.5	N7.5
2.5Y 7.0/1.0	5B 7.0/0.5	N6.0
2.5Y 6.0/1.0	2.5PB 6.0/2.0	N5.0

3. 景観拠点別の推奨する色彩

1) 歴史景観拠点 表参道



○色彩の現状

a. 全体傾向

木造建築の木の色や蔵造りの黒漆喰の色、屋根の瓦や銅葺きの色などの素材の色が、歴史的な景観を形成しています。駅周辺から成田山新勝寺門前まで、地区ごとのまちづくりの方針により、それぞれの特徴を持つに至っています。

b. 色彩の特徴

色彩の特徴としては、長年使いこまれた木の色彩を中心とした YR 系の色彩と、瓦や黒漆喰の色彩を中心とした無彩色の 2 つに集中しています。他の色相でも低彩度で渋みのある色彩が多く、非常にまとまった景観を形成しています。

■出現頻度順分析



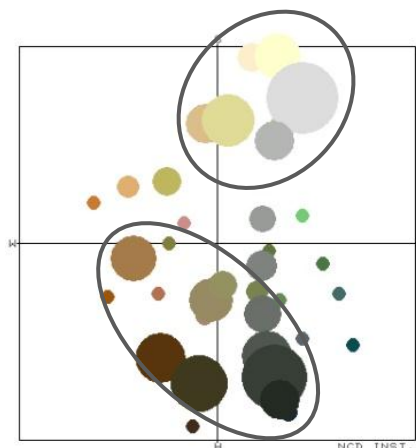
この地区では、参道の並びの景観になじむような計画が望ましいため、参道沿いの建築物の外壁色、近景として見える軒の屋根色を測っています。

■色相&トーン分析

	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	計
あ											
か											
あ		0.4									0.4
か											
あ											
い			2.1	5.3							7.4
お											
だ			3.7	6.6	0.4						10.7
や			1.2	2.1		0.4				0.4	4.1
か	0.8	4.5	2.1		0.4				0.4		9.5
く	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4						7.4
ら							0.4				0.8
い											
計	1.6	31.7	16.5	2.1	1.2		0.8	1.2		0.4	55.6

木の色を中心とした YR~Y 系と、いぶし瓦を中心としたグレー系に分かれているのが特徴的です。

■イメージスケール分析



明るくソフトなイメージと、伝統と格調を感じさせるハードなイメージに分かれています。

○色彩の考え方

a. トーンからみた推奨の方向

YR系と無彩色中心の色彩でまとまっているため、色相及び彩度の面で、それらと極端に異質な色彩は多く用いないように配慮しましょう。

地区によって、明るいトーンが中心の場合と、暗いトーンが中心の場合など特徴が異なっているため、それぞれのトーンの傾向を把握して計画しましょう。

b. イメージからみた推奨の方向

これまで伝統に配慮しながら地域の人々が作りあげてきた現在の姿を手本に、今後もその方向性を継承していきましょう。

全体的に、歴史的な伝統イメージと品格を感じさせる格調あるイメージを意識した素材の計画や色彩計画が望ましいでしょう。

c. 推奨色と配慮事項

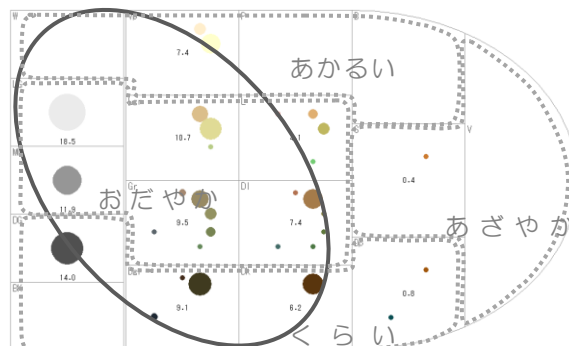
表参道全体は、木造建築や蔵造りにより歴史性が感じられる地域です。自然素材の色彩がゆったりした雰囲気形成しているため、それらに配慮した色彩計画としましょう。

基調色は落ち着いたきや風格を感じさせる色彩が望ましいでしょう。木の色彩に近いYR～Yの色相で、低彩度、中～低明度の色彩を中心に考えましょう。

漆喰の柔らかな白や黒漆喰の暗灰色、屋根や看板に用いられている銅葺きの緑青に似たGY～G系の渋い色彩やいぶし瓦など伝統的な素材の色彩も参考になるでしょう。

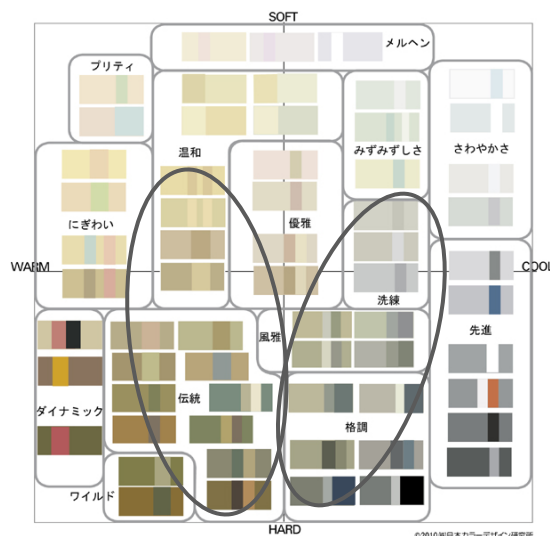
推奨色に関しては、表参道の各地区（花崎町、上町、仲町、本町）を参照してください。

■ トーンからみた推奨の方向



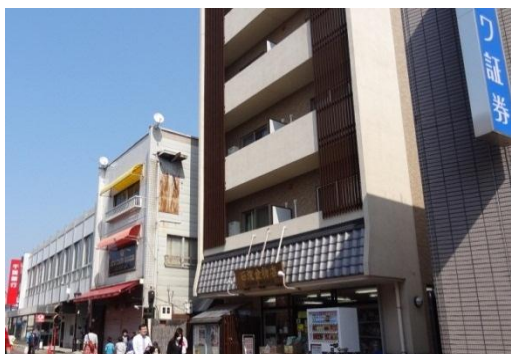
木の色彩を中心としたYR～Y系と、いぶし瓦を中心としたグレー系を含む中～低彩度の落ち着いたトーンに配慮しましょう。

■ イメージからみた推奨の方向



長い年月を経て醸成されてきた木を中心とした自然さや、伝統を感じさせるイメージ、風情と格調を感じさせるイメージを大切にしましょう。

① 花崎町



○色彩の現状

a. 全体傾向

表参道の中ではビルが多く、直線的な形状が多いため、現代的ですっきりした印象を感じさせる地域です。灰色の印象が強い傾向があります。

b. 色彩の特徴

灰色などの無彩色が多くを占めており、穏やかな印象です。灰色は、明るいトーンから暗いトーンまで、幅広く使われています。その他は、YR～Y系で低彩度のベージュ系の色彩が多い傾向です。有彩色では中明度で、中～低彩度の穏やかで地味なトーンが中心であり、高明度や低明度な色彩は少ない傾向となっています。

■出現頻度順分析

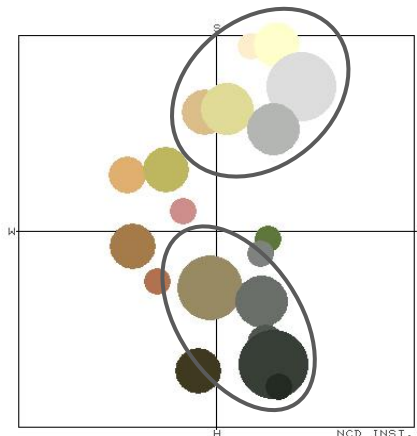


■色相&トーン分析

	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	計
V											
S											
B											
P											
あ											
か											
かる											
い											
Vp		1.7	5.2								6.9
お											
Lgr			5.2	6.9							12.1
だ											
L			3.4	5.2					1.7	18.3	
や											
Gr		1.7	18.3								12.1
か											
DI		1.7	5.2		1.7						8.6
く											
Dp											
Dk											
ら											
Dgr			5.2								5.2
い											
計		3.4	31.0	17.2	1.7					1.7	55.2

YR～Y系と、グレー系に大きく分かれるのが特徴です。暗いグレーはアクセント的な使われ方が多い傾向です。基調色は、中明度となっています。

■イメージスケール分析



低彩度中心のため、穏やかなイメージゾーンに集中しています。

○色彩の考え方

a. トーンからみた推奨の方向

低彩度の色彩でまとまっている地域であるため、今後も彩度に配慮した計画が望ましいでしょう。

色相では YR~Y 系が多くを占めているので、基調色では、この色相を中心に計画しましょう。

b. イメージからみた推奨の方向

落ち着いた歴史の雰囲気伝えるシックな街並みを形成しているため、この風情を継承しながら品格を感じさせるイメージを目指しましょう。

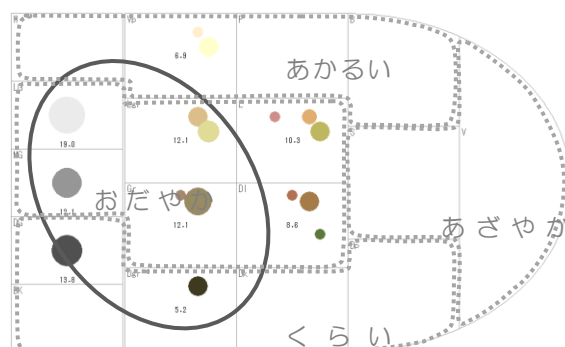
c. 推奨色と配慮事項

低彩度で落ち着いたトーンの色相を推奨します。

無彩色の濃淡を活用し、穏やかでまとまりを感じさせる街並みを目指しましょう。

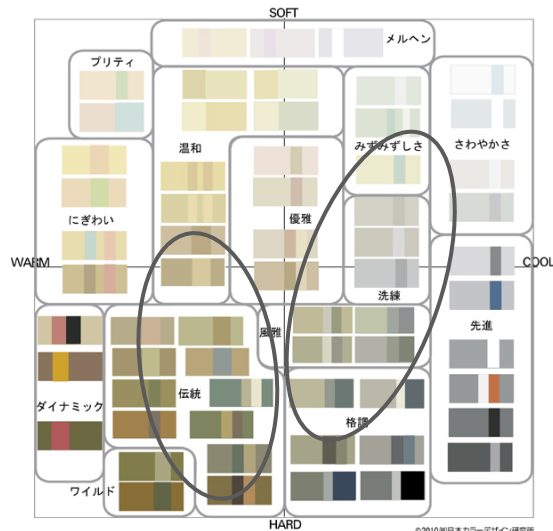
また、有彩色も低彩度でシックさを感じさせる色相を用いると、質の良さを表現できます。

■ トーンからみた推奨の方向



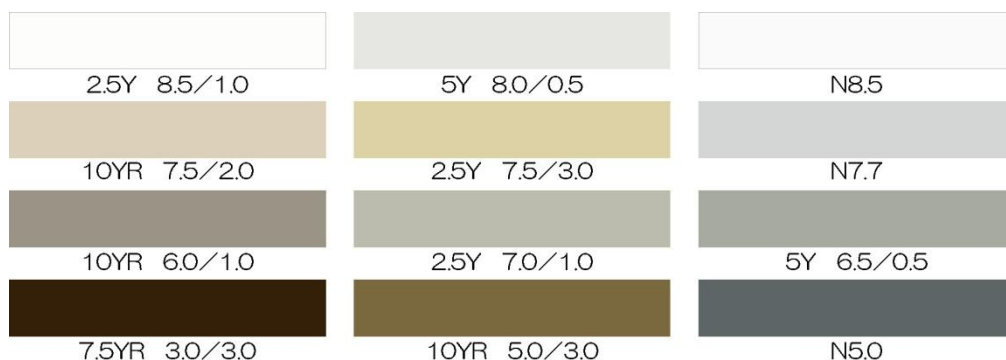
低彩度色を中心としましょう。無彩色の場合は極端な白や黒などは避け、穏やかでさりげないトーンがおすすめです。

■ イメージからみた推奨の方向



低彩度色を活用しながら、シックで品格のあるイメージを目指しましょう。

○推奨色一覧



② 上町



○色彩の現状

a. 全体傾向

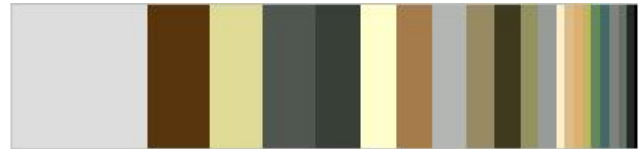
表参道の中で、最も壁の明るさを感じる街並みです。漆喰や漆喰調の白壁や明るいアイボリー系の壁、さらにナマコ壁の意匠に用いられている瓦タイルの色や瓦屋根の灰色が多く、明度の高い、明るい無彩色が中心といえるでしょう。

b. 色彩の特徴

無彩色が5割を占め、有彩色もYR、Y系の低彩度へ集中しているため、色みがあまりなく、さっぱりした印象を形成しています。

無彩色は、白壁を中心に明るいトーンが多くを占めているため、全体的にソフトな雰囲気です。一部、縦格子などに用いられている暗いトーンのYR系ブラウンがコントラストを感じさせ、アクセントとなっています。

■出現頻度順分析

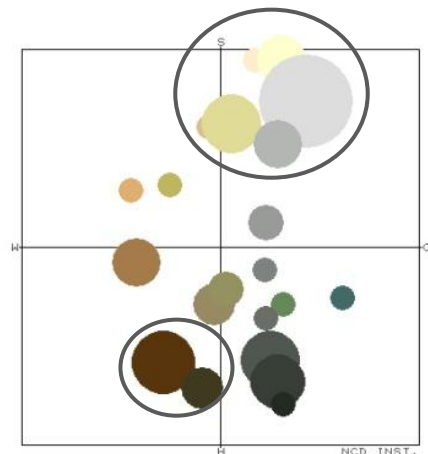


■色相&トーン分析

	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	計	
あや	V											
か	S											
あ	B											
か	P											
い	Yp	1.4	5.7								7.1	
お	Lgr	1.4	8.6								10.0	
だ	L	1.4	1.4								2.9	
か	Gr	4.3	2.9		1.4						8.6	
く	DI	5.7					1.4				7.1	
ら	Dp											
い	Dk	18.6									18.6	
	Dgr	4.3									4.3	
計		28.6	18.6		1.4		1.4				50.0	

YR~Y系とグレー系に大きく分かれています。明るく灰みのトーンと、YR系の木の色彩が特徴的です。明るいグレーはいぶし瓦が明るく見えている状態です。

■イメージスケール分析



木の暗いトーンの色彩もありますが、表参道の中では、この地区が最も明るい外壁色となっており、ソフトなイメージです。

○色彩の考え方

a. トーンからみた推奨の方向

明るい灰色及び白壁が中心であるため、今後この傾向になじむように配慮しましょう。

b. イメージからみた推奨の方向

灰色や他の低彩度色のもつ穏やかさ、シックさにふさわしい色彩計画を目指しましょう。

来訪者の心が和むような、明るく心地よい穏やかさも重要でしょう。

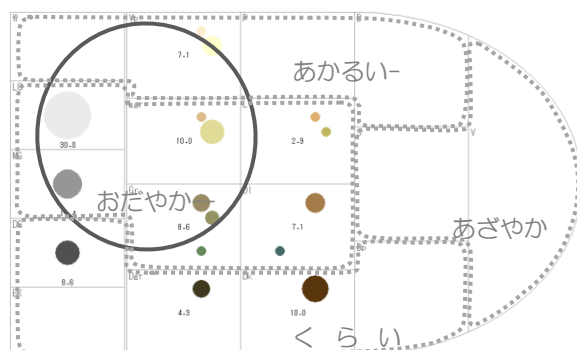
c. 推奨色と配慮事項

この地域の基本的な色彩である灰色をベースとして考慮し、明るい低彩度色を推奨します。

漆喰の柔らかな白や、白木などの柔らかな自然の色彩なども参考になるでしょう。

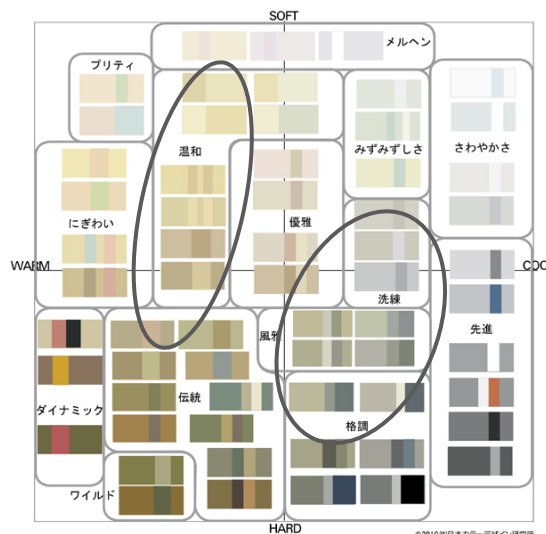
明るく穏やかな街並みが形成されているので、近隣に合わせて、濃淡の差が極端なコントラストの強い組み合わせは避けましょう。また、自然素材を大切にしているので、人工的な光沢感の強い素材も避けたいところです。

■ トーンからみた推奨の方向



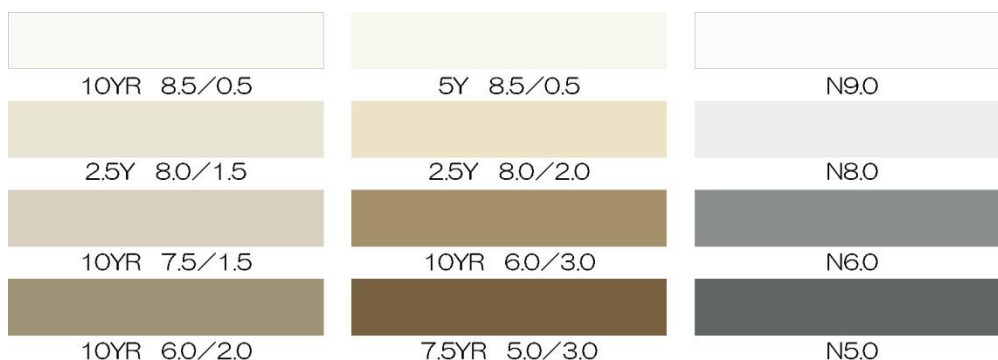
明るめの低彩度なトーンを中心としましょう。穏やかでのんびりした印象で多くの人々にくつろいでもらえる空間を目指しましょう。

■ イメージからみた推奨の方向



柔らかくのどかなイメージと、風情があり品格のあるイメージを目指しましょう。

○推奨色一覧



③ 仲町



○色彩の現状

a. 全体傾向

板壁や蔵造りの黒漆喰の灰色など、低明度の色彩の建築物が並び街並みです。使い込んだ木の色が深みのあるトーンとなり伝統を感じさせ、風格のある通りとなっています。

b. 色彩の特徴

木材の色彩であるYR系統が4割近くを占めており、茶色の濃淡で構成されている建築物が中心です。

他方の4割を占める無彩色は中～低明度の灰色であり、蔵造りも、黒漆喰が色褪せて暗灰色になっており重厚さを感じさせています。全体に暗いトーンで街並みが構成されています。

■出現頻度順分析

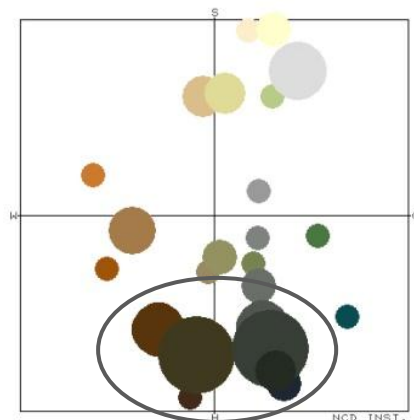


■色相&トーン分析

	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	計	Neutral
あ	V											N9.5
あ	S	1.4									1.4	N9
あ	B											N8
あ	P											N7
い	Vp	1.4	2.9								4.3	N6
い	Lgr	4.3	4.3	1.4							10.0	N5
い	L											N4
お	Gr	1.4	2.9	1.4							5.7	N3
お	DI				1.4						1.4	N2
か	Dp	5.7									5.7	N1.5
か	Dk	1.4									1.4	計
か	Dgr	1.4									1.4	41.4
計		6.0	16.0	12.0	30.0		10.0	10.0			84.0	

木、銅、黒漆喰などの素材の色彩で暗いトーンが多くなっています。長い年月を経て使い込まれた色といえるでしょう。

■イメージスケール分析



暗いトーンが多いため、ハードなイメージで、伝統と風格、格調を感じさせる街並みです。

○色彩の考え方

a. トーンからみた推奨の方向

YR系と無彩色中心の色彩でまとまっているため、色相及び彩度の面で、それらと極端に異質な色彩は多く用いないように配慮しましょう。

仲町は特に明度の低い色彩が中心であり、高明度の色彩などは異質で目立ちやすいので、中～低明度の色彩を基調色として用いるように計画しましょう。

b. イメージからみた推奨の方向

伝統と格調を感じさせる、ハードな方向性や、落ち着きがあり重厚なイメージが望ましいでしょう。

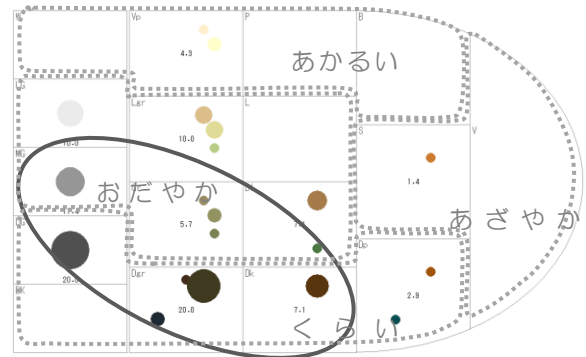
c. 推奨色と配慮事項

基調色は、風格や落ち着きを感じさせる色彩が望ましいでしょう。木の色に近い YR～Yの色相のうち、渋さのある低彩度で、暗めの中～低明度の色彩を中心に考えましょう。

屋根や看板に用いられている銅葺きの緑青に似た GY～G系の渋い色彩や、屋根に用いられているいぶし瓦など伝統的な素材の色も参考になるでしょう。

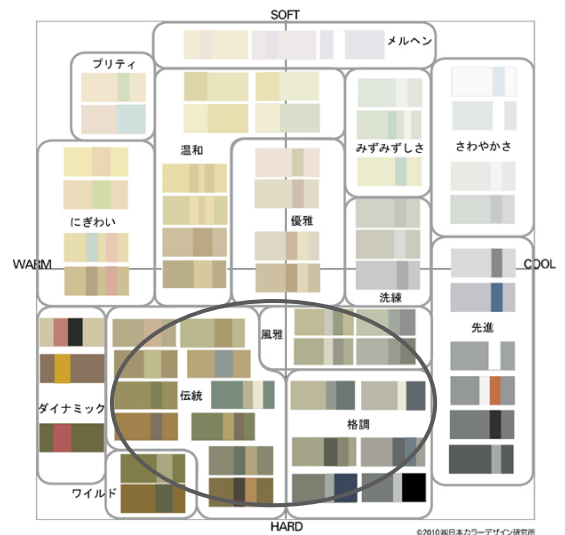
坂から新勝寺を眺めると、屋根の色彩が視界の多くを占めるため、屋根の色彩にも配慮しましょう。

■ トーンからみた推奨の方向



古びを感じる暗いトーンを活かしながら計画しましょう。

■ イメージからみた推奨の方向



伝統、重厚さ、格調感など歴史の重みと、品格の高さを目指しましょう。

○推奨色一覧

2.5Y 6.0/1.5	5Y 5.0/1.0	10Y 5.0/1.0
10YR 6.0/2.0	10YR 4.0/1.0	5GY 4.0/1.0
7.5YR 5.0/2.0	10YR 4.0/2.0	N4.0
10YR 4.0/3.0	5YR 3.0/2.0	N3.0

④ 本町



○色彩の現状

a. 全体傾向

駐車スペースなども設置され、明るめの外壁の大型建築と、伝統的な意匠の建築物が混在する地区となっています。拡がりがあるため、全体としては明るい印象です。

b. 色彩の特徴

YR、Y系が中心であり、銅板葺きの屋根なども見えるため、GY系などの色相も見られます。中明度～高明度の低彩度トーンが中心であるため、明るい印象となっています。無彩色は、暗いトーンでアクセント的に用いられている傾向があります。

■出現頻度順分析



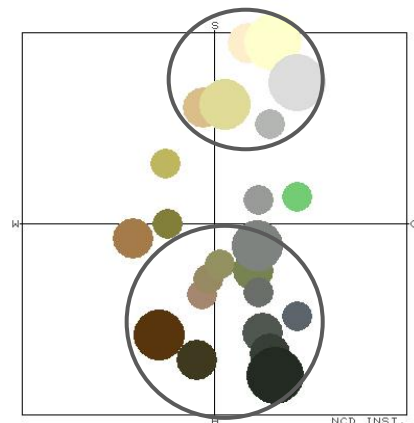
■色相&トーン分析

	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	計
あ や か V											
S											
あ か る い P											
Vp		4.4	8.9								13.3
お だ Lgr		4.4	6.7								11.1
L			2.2		2.2						4.4
や か Or	2.2	2.2	2.2	4.4				2.2			13.3
DI		4.4	2.2								6.7
Dp											
く ら い Dk		6.7									6.7
Dgr		4.4									4.4
計	2.2	26.7	22.2	4.4	2.2			2.2			60.0

	Neutral
あ か る い N9.5	8.9
N9	2.2
N8	2.2
お だ N7	6.7
N6	2.2
や か N5	4.4
N4	4.4
く ら い N3	8.9
N2	2.2
N1.5	2.2
計	40.0

YR系とY系の地味なトーンに集中しています。木の色彩の暗いトーンも見られます。また、無彩色は幅広く見られます。

■イメージスケール分析



穏やかなゾーンに集中していますが、ソフトな傾向とハードな傾向が混在しています。

○色彩の考え方

a. トーンからみた推奨の方向

無彩色の割合が多いため、基調色は低彩度トーンがふさわしいでしょう。その中でも、中～高明度のほうが、拡がりのある現状になじみやすいでしょう。

旧来から使われている素材などを参考にしながら計画するのも良いでしょう。

b. イメージからみた推奨の方向

伝統的な雰囲気を受け継ぎながら、穏やかで明るい、気持ちの良いイメージを目指しましょう。

新勝寺の門前でもあり、控えめで質の良いシックなイメージの方向性がふさわしいでしょう。

c. 推奨色と配慮事項

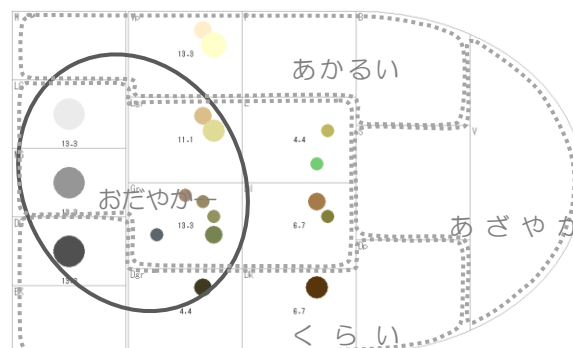
明るめの無彩色および低彩度色が基調色としてはふさわしいでしょう。

伝統を感じさせる深みのあるトーンなどをアクセントに用いるのもよいでしょう。

軒の色なども目につく場合が多いので、軒に使う素材と色彩は近隣に配慮しましょう。

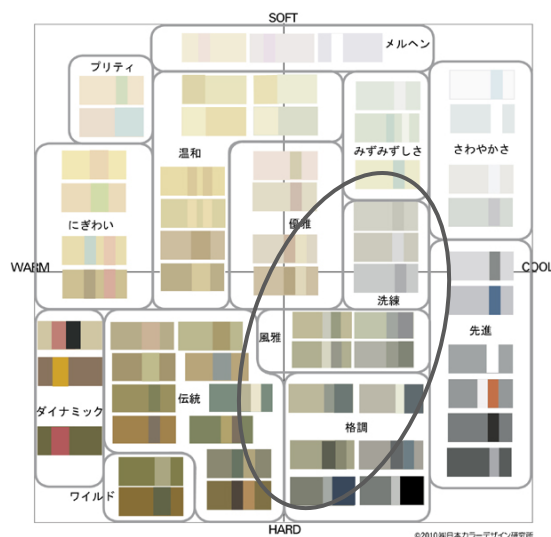
建築物の規模によって印象が異なるため、大規模なものの外壁色についてはよく吟味して、あまり暗くなり過ぎないように留意しましょう。

■ トーンからみた推奨の方向



低彩度トーンを中心として、落ち着いた雰囲気を目指しましょう。

■ イメージからみた推奨の方向



穏やかな色彩を用いながら、新勝寺の門前の品格ある街並みを目指しましょう。

○推奨色一覧

2.5Y 80/1.5	10YR 80/1.0	N7.0
5YR 7.5/1.5	7.5YR 6.0/4.0	5Y 4.0/1.0
2.5Y 6.0/1.5	7.5YR 4.0/4.0	5PB 4.0/1.0
10YR 5.0/3.0	7.5YR 3.0/3.0	N3.5

参考事例 歴史景観拠点の色彩の傾向



■出現頻度順分析



■出現頻度順分析



○色彩の現状

a. 全体傾向

歴史景観拠点は、新勝寺を始めとして市内に散在していますが、色彩については類似の傾向が認められます。基本の木造建築は、素のままの扱いのものが多く、長年風雨にさらされ、褪せたグレイッシュなトーンになっています。そこにベンガラの赤、朱の赤などが部分的に用いられていますが、これも褪せたグレイッシュなトーンであり、類似の傾向となっています。

b. 色彩の特徴

この景観拠点では、歴史的建造物が敷地内の植栽に囲まれているため、外壁色のほか、植栽の緑も含めて測色しています。また、大型の建築物はその色彩の構成の多くを屋根が占めている形状のものも多くあるため、そのような特徴を踏まえて屋根の色彩も測っています。

色彩の特徴としては、木の色彩であるYR系が中心で、特に褪せたグレイッシュなトーンに集中しています。銅板葺きの屋根などもあるため、GY系などの色相も見られます。

中明度で中～低彩度トーンが中心であるため、穏やかな印象です。

■色相&トーン分析

木の色彩、萱の色彩などはYRまたはYの色相に含まれます。いぶし瓦は無彩色のグレーの濃淡に含まれます。

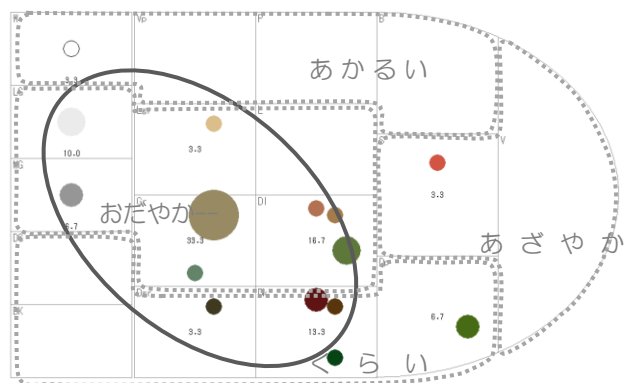
銅葺きの屋根やそれを模したのものも多くみられるため、GY~Gの色相が見られるのが特徴的です。

歴史的建造物で用いられている赤は、鮮やかなトーンではありますが、ピピッドな赤ではなく、ややくすんだトーンに属していることが分かります。

	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	計	Neutral	
あ												N9.5	
や												N9	
か	3.3										3.3	N7	
あ												N7	
か												N7	
る												N7	
い												N7	
Vp												N7	
お												N5	
Lgr				3.3							3.3	N5	
だ												N4	
や												N4	
か												N4	
ら												N3	
い												N3	
DI	3.3										16.7	N2	
く												N2	
ら												N2	
い												N1.5	
DI	6.7										13.3	N1.5	
Dgr	3.3										3.3		
計	13.3	43.3		16.7	3.3	3.3					80.0	計	20.0

■トーン分析

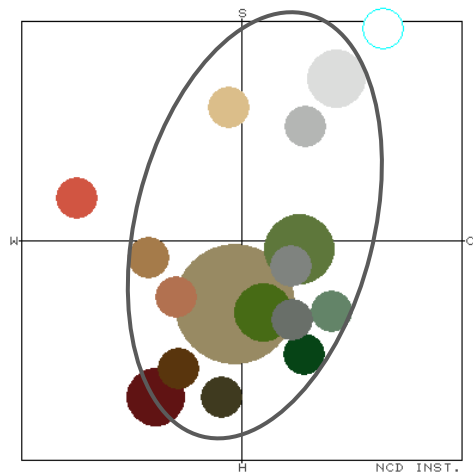
長い年月、風雨にさらされ褪せて、低彩度になった自然素材の色彩が中心となっています。



■イメージスケール分析

ソフトゾーンとハードゾーンに広く分布しますが、穏やかなゾーンに位置しています。

自然素材の褪せた色彩が中心であるため、ややハードで落ち着いた印象となっています。



はなやか おだやか さわやか

2) 駅周辺景観拠点 成田駅



○色彩の現状

a. 全体傾向

JRと京成の二つの駅が隣接して、人通りが多くにぎわいのある地域です。

両駅前は、ともに高さや大きさが様々な建築物により構成されています。

b. 色彩の特徴

色彩の特徴としては、YR系中心で、その濃淡の構成となっています。

R系が多いのは、暗いトーンの色～焦げ茶のレンガ調タイルのほか、ビルの塗装によるものです。

明るいグレーも含めて、明るい灰みのトーンが多い傾向です。

■出現頻度順分析



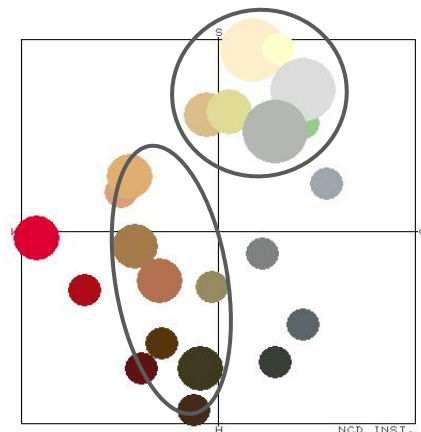
この地区では、ロータリーや道路に沿って建築物が並んでおり、その隣や向かいとのバランスを検討して計画する必要があるため、建築物の外壁の基調となる色を測色しています。

■色相&トーン分析

	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	計
あ	5.3										5.3
か											
る											
い											
い		10.5	2.6								13.2
い		5.3	5.3		2.6						15.8
だ		2.6	5.3					2.6			7.9
だ			2.6					2.6			5.3
か		5.3	5.3								10.5
く		2.6	2.6								2.6
ら		2.6	2.6								5.3
い		2.6	5.3								7.9
計	21.1	36.8	7.9		2.6			5.3			73.7

やや規模の大きい建築物は、明るいグレーやアイボリーなど、明るいトーン中心です。その他、レンガ調タイルなどでR～YRの色相がみられます。

■イメージスケール分析



明るいソフトイメージと、温かく、伝統を感じさせる落ち着いたイメージに分布しています。

○色彩の考え方

a. トーンからみた推奨の方向

基調色は、低彩度で明るめの色彩を中心に考え、穏やかで、ゆったりした雰囲気配慮しましょう。

来訪者を温かく迎える気持ちを表現し、落ち着いた印象を大切にするために、強い印象がする極端に白い色又は黒い色や、コントラストをつけてシャープな印象を強めた色使いは、避けましょう。

b. イメージからみた推奨の方向

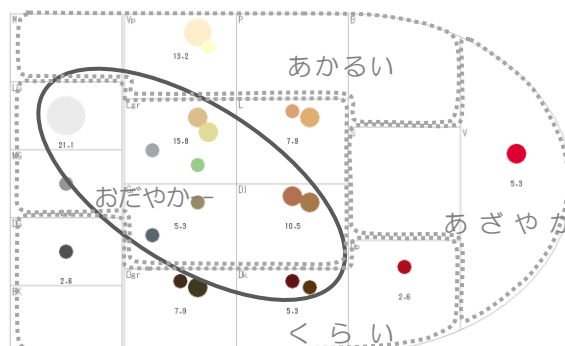
伝統や格調を感じさせるイメージを追求していきましょう。

c. 配慮事項

表参道の花崎町との連続性を重視した色彩計画とすると良いでしょう。

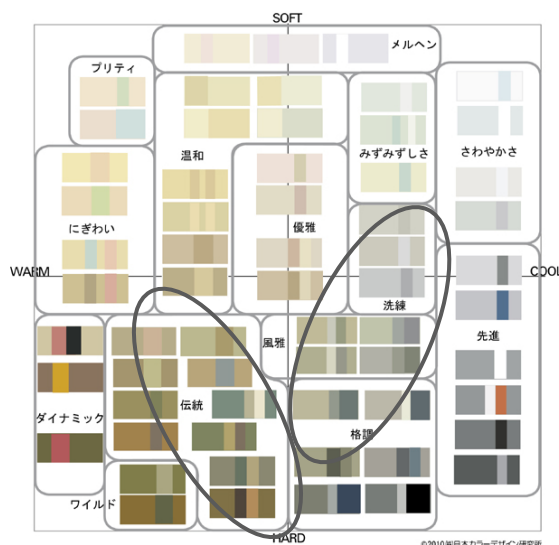
駅前の整備が進められていく中で、駅前の雰囲気や状況が変化していくことが予測されます。それらの変化に合わせて、今後、付近の住民や駅の利用者など、多くの人に共感を抱いてもらえるような色彩やデザインのあり方を決めていくのが望ましいことから、ここでは、大まかな色彩のトーンの傾向及びイメージからの推奨のみとします。

■ トーンからみた推奨の方向



今後、大型のビルなどを計画する場合等は、低彩度で明るいトーンを中心にし、強調色や意匠の工夫により伝統や品格を感じさせるデザインとなるよう配慮しましょう。

■ イメージからみた推奨の方向



多くの来訪者をお迎えするために、伝統と格調を大切にしましょう。

4.色彩の使い方

色彩の使い方ワンポイントアドバイス その1 隣や周辺になじむ色彩

- 隣や周辺より彩度の高い色彩を使うと、違和感を感じさせやすいので留意しましょう。



色相を変えるよりも、彩度を下げて明度もなるべく周囲の建築物と類似にすると、個性の違いを出しながらも両隣になじみます。



- 形状や色調の違いなども、周囲との違和感につながる場合がありますので注意しましょう。



外装の形状は変えず、色調やコントラストを周囲の建築物と類似にすると、なじみやすくなります。

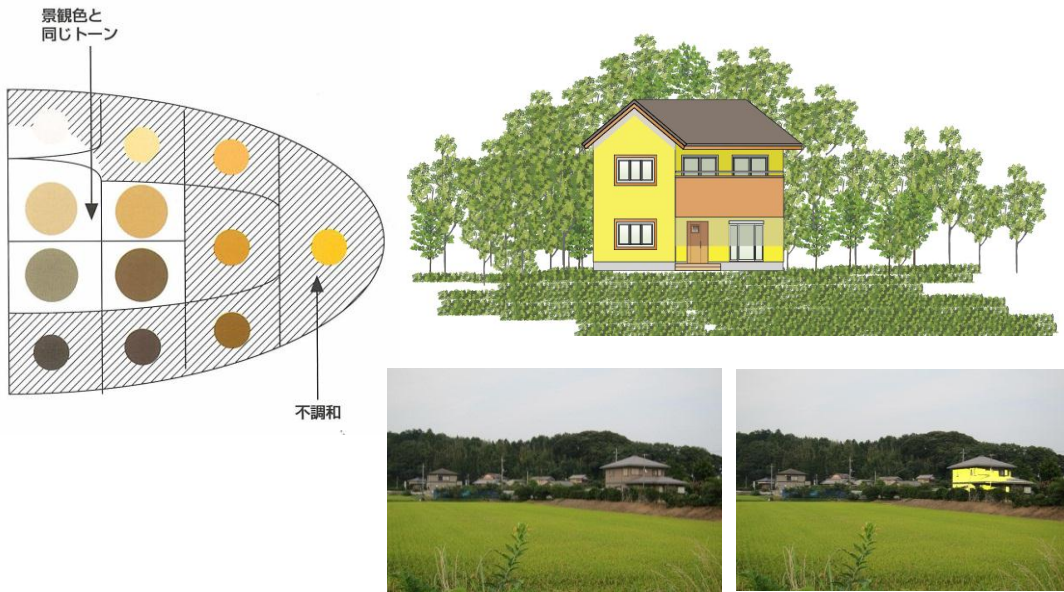


- 成田市には、トーンが整った住宅街が多くあります。落ち着いた景観を大切にしていきたいでしょう。



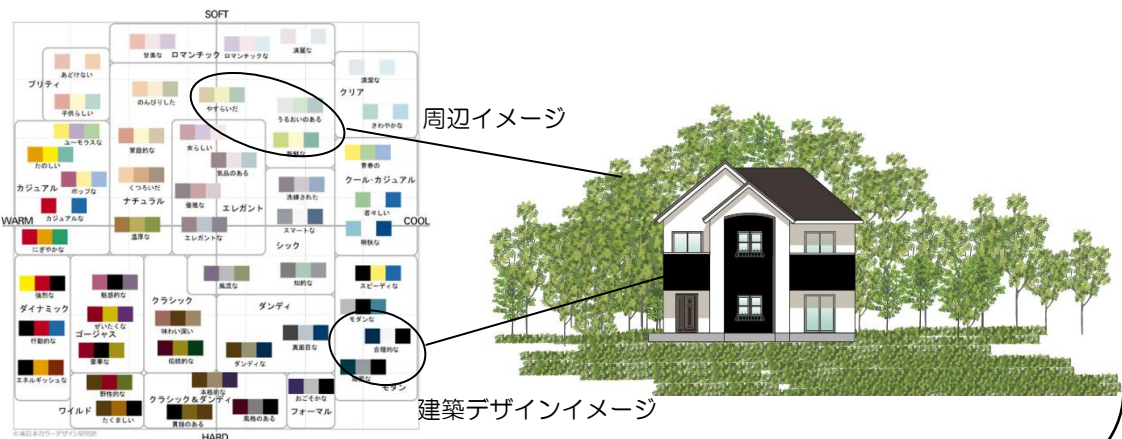
色彩の使い方ワンポイントアドバイス その2 自然景観になじませる

- 自然の色彩は彩度 8 以下が多い傾向です。特に周囲を自然に囲まれた立地の場合、周辺の景観と調和するよう、彩度の強さに配慮しましょう。谷津の田畑の色彩、豊かな稲穂の実りの色彩、背後の山林の色彩等、特徴ある色彩とのバランスを考慮しましょう。



■周囲の緑と調和したトーンを用いた場合と、不調和なトーンを用いた場合のシミュレーション

- 白や黒など無彩色のコントラストの強い組み合わせなどは、人工的な印象が強い傾向があるため、自然の色彩とは雰囲気異なります。イメージのギャップが大きいと違和感を感じさせます。建築物が立地する周囲の環境のイメージにも配慮しましょう。

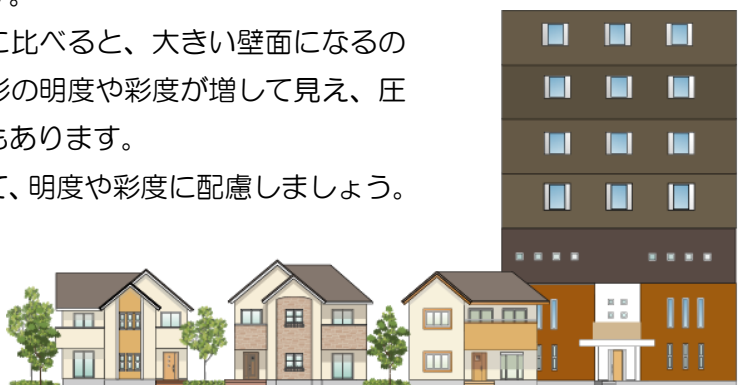


色彩の使い方ワンポイントアドバイス その3 中～高層の建造物の色彩

- 成田市では高層の建築物が並ぶ状況が少ないため、中～高層の建物は、空が背景になります。空を背景にすると、明度の低い色彩は思った以上に黒々と目立つ傾向があります。

また、低層の建物に比べると、大きい壁面になるので、面積効果で色彩の明度や彩度が増して見え、圧迫感を感じる場合もあります。

周辺の状況に合わせて、明度や彩度に配慮しましょう。



明度の低い高層の建築物は、空が背景となった場合、周囲から目立ち圧迫感を感じさせることがあるため、周辺状況に合わせて配慮してください。

- 中～高層の建物でも、両隣とのバランスや周辺とのなじみには配慮しましょう。基本的には、それぞれの地域でこれまで使われてきた色彩を参考にして、明度や彩度などを検討しましょう。

また、軒の高さなども意識した分節デザインなど、形状にも配慮しましょう。



明るさが異なったり、トーンが異なるなど、周辺と違う印象であると、通りの連続性がとぎれる場合があります。一体感を感じさせるように、両隣や向かいなどとの色彩のつながりに配慮しましょう。

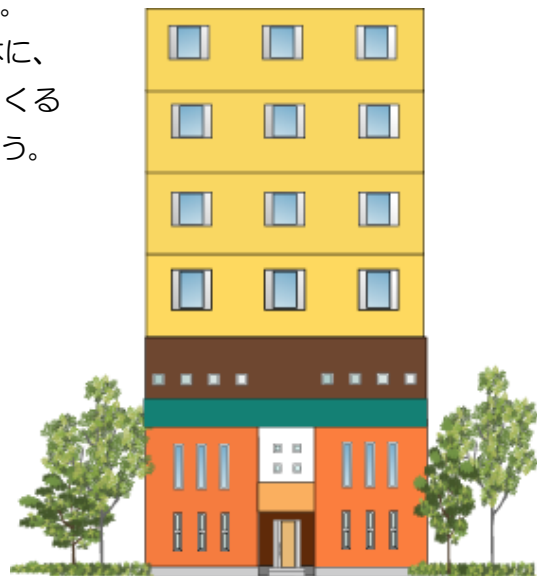
色彩の使い方ワンポイントアドバイス その4 色彩の組み合わせの工夫

- 商業地でも、色彩を多く用いると、周囲となじみにくくなる場合や、不快な印象につながる可能性が高くなります。

さらに看板の色彩なども付け加わることも考慮し、効果的な色彩を検討してください。
基調色＋強調色というテクニックを基本に、上層部はおだやかなトーンで基調をつくる等、色彩の組み合わせ方を工夫しましょう。



■カラフルな建築物が目立つ事例



- コントラストの強い組み合わせは、信号の色彩や安全標識の色彩と混同しやすく、安全性を阻害する可能性も出てきます。
立地の場所によって、配慮しましょう。



立地する場所により、信号や安全標識の色彩と混同しないような色彩の組み合わせを選択することが大切です。

5. その他の配慮事項

1) 照明の色彩

照明についても、景観及び周辺への配慮をしましょう。

照明の色彩は、一定の基準で固定的に決まるものではなく、それぞれの場所で周囲の照明環境などによって相対的に考えていくべきものであるため、本ガイドラインで示した各景観ゾーンでの考え方も反映させて計画してください。

- ① 光が投射された壁面の色彩に関しては、P1 1～1 2に示した色彩基準に準拠するものとします。また、壁面全体に投射することを避けるとともに、輝度においてもまぶしさを感じないように配慮するものとします。
- ② 照明設備及び広告等の設計の際には、下表の環境省「光害対策ガイドライン」の照明環境類型にあわせて適切な配慮が必要です。

照明環境 I	自然公園や里地等で、屋外照明設備等の設置密度が相対的に低く、本質的に暗い地域	安全のための照明環境 自然環境と調和した照明の使用を配慮しましょう。
照明環境 II	村落部や郊外の住宅地等で、道路灯や防犯灯等が主として配置されている程度であり、周辺の明るさが低い地域。	安心のための照明環境 自然環境に調和した照明の使用をはじめ、住宅への配慮などを含めた照明計画が必要とされます。 周辺の光環境とのバランスを含め、照明の使用時間などにも配慮することが望ましいでしょう。
照明環境 III	都市部住宅地等で、道路灯・街路灯や屋外広告物等がある程度設置されており、周囲の明るさが中程度の地域。	やすらぎのための照明環境 居住者へ配慮し、周辺の光環境とのバランスを考慮してください。 まちそれぞれの目指すイメージにふさわしい照明計画が望ましいでしょう。
照明環境 IV	大都市中心部、繁華街等で、屋外照明や屋外広告物の設置密度が高く、周囲の明るさが高い地域。	楽しみのための照明環境 快適で心地よい雰囲気を出せるデザインに配慮し、周辺環境のイメージアップにつながる照明計画が望ましいでしょう。 照明の色彩などについても、周辺状況に合わせて配慮し選択してください。

※輝度とは、発光体の単位面積あたりの明るさのことで、光源のまぶしさを示す量とも言えます。光源(ランプなど)をはじめ、反射面や透過面などの 2 次光源から観測者に向かって発する光の強さを示す指標です。